

松下ゆきよし 県政活動レポート

Vol.7

〈発行日〉
平成29年1月1日

発行責任者／愛媛県議会議員 松下行吉 連絡先／〒791-2141 伊予郡砥部町岩谷口135 TEL (089) 969-3605



新年明けましておめでとうございます

旧年中は、格別の御厚情を賜り厚く御礼を申し上げます。

写真は、昨年10月の「サイクリングしまなみ2016」の時のものです。出発早々、トンネル内で前の自転車に追突してしまい転倒。痛みを我慢して走つていくところでした。途中、何度もやめようとしたのですが、同僚議員に励まされて、110キロを完走しました。ただ、ゴールしたのは、時間切れ寸前の午後5時20分頃。最後の坂は、自転車を降りて、押してのゴールでした。色々あった平成28年ですが、それらを糧にこれからの議員活動を行ってまいります。今年も宜しくお願ひします。

新しい年が皆様にとってよき年でありますよう、お祈り申し上げます。

新しき年の始めの初春の

今日降る雪のいや重け吉事

よこご
大伴家持



この完走証は、大切な宝物です。

愛媛県議会定例会（平成28年12月）の概要

第350回定例県議会（平成28年12月）が、11月28日から12月14日までの17日間の会期で開催されました。なお、12月議会に先立つ11月8日に臨時議会を開催しています。

臨時議会は、国の第2次補正予算が成立したことを受け、県も188億円の補正予算を組みましたので、それを審議したものです。このため、12月議会の補正予算は、県人事委員会勧告に基づく給与改定費だけとなっています。

12月議会でも可決された議案は26件。内訳は補正予算4、条例改正4、その他10、収用委員会委員の人事案件3、意見書5です。その他には、継続審査としていた27年度決算の認定を含みます。また、自動車交通事故による損害賠償額を定めた専決処分報告がありました。

2 補正予算

(1) 11月臨時補正

国の第2次補正予算を受け、県でも経済対策に188億7,232万円の補正予算を組みました。補正の内容は表1、一般会計の財源は表2のとおりです。防災・減災対策や農業基盤の整備などのハード事業中心の予算となっています。

特別会計は、国営土地改良事業（南予用水地区）の長寿命化対策に対する負担金を計上しています。企業会計は、工業用水道で、松山・松前地区の浄水場施設や水管橋、西条地区の沈殿池の耐震化を図る予算です。

(2) 12月補正予算

12月補正予算は、県人事委員会勧告に基づく給与改定費分として、一般会計、企業会計合わせて12億1,100万円です。



(表1) 11月補正予算（経済対策）

一般会計	183億9,852万円
防災・減災対策	140億 899万円
・道路、河川、海岸、港湾、治山などの防災・減災対策を前倒し実施	
・大洲・八幡浜自動車道や岩城橋の整備促進	
・土砂災害警戒区域等の指定に係る基礎調査	
・原発周辺地域の放射線防護対策や避難経路の通行円滑化調査など 34事項	
農林水産業の振興	42億6,409万円
・中山間地域の農業者等の所得向上支援	
・農業基盤の整備、間伐の促進、魚礁・増殖場の造成など 15事項	
地域活性化の推進	1億2,544万円
・えひめ版農業ワーキングホリデーの実施	
・伊予の媛貴海 ^{ひめたかみ} の種苗生産施設整備	
・JR伊予西条駅のバリアフリー化支援など 5事項	
特別会計（1会計）	3,800万円
企業会計（1会計）	4億3,580万円
合計	188億7,232万円

(表2) 一般会計 歳入予算

区分	補正予算額
地方交付税	10億 2,551万円
分担金及び負担金	7億 2,803万円
国庫支出金	97億 103万円
諸収入等	5,495万円
県債	68億 8,900万円
合計	183億 9,852万円



3 その他(10件)

①平成29年度の宝くじ発売限度額(135億9,500万円)を定める。

②指定管理者の指定

中予地方局管内の県営住宅の指定管理者として「愛媛県営住宅管理者グループ(広島市)」を指定。期間は、平成29年4月から5年間

③県営事業の負担金の額の変更(4件)

④平成27年度一般会計と企業会計(3件)の決算認定

4 意見書

以下の要望を国に提出することとしました。

▼国政選挙における選挙区定数等の見直しに関する意見書

今後、人口のみを基準に格差解消を図り続けていけば、都市と地方との格差の一層の拡大が危惧されるため、抜本的な選挙制度改革を行うよう要望

▼民泊のあり方に関する意見書

法制化にあたり、公衆衛生、防火、防災・防犯など管理責任についての明

確なルールを設けることを要望

▼森林認証制度の普及促進を求める意見書

国産認証材の活用が進まず、森林認証取得者に負担がかかっている。国民の理解を得られる体制整備、PR活動に取り組みよう要望

▼骨髓等移植ドナーに対する支援の充実に関する意見書

ドナー休暇制度化や、ドナーが骨髓提供のため休業する場合の補償制度創設等の検討を要望

▼国民健康保険制度への確実な財政支援の実施を求める意見書

平成30年度から国保の財政運営を都道府県が担うこととなった。前提として、国が29年度以降の財政支援を3,400億円充実することとなっているが、昨今、29年度拡充分を減額する方向で調整に入ったとの報道がある。国保制度改革に支障を来すことのないよう、財政支援拡充の確実な実施を要望



集記 編後

▼平成28年11月25日の愛媛新聞に「伊予鉄が進めている電車、バス外装のオレンジ色への統一について、松山市景観審議会の有志が『色が鮮やかすぎ、景観へ配慮し見直しを』と提案した」との記事がありました。このことについて、フェイスブックで色々な意見を見ました。総じて「確かにそう思う」といった意見が多かったです。私は、鈍感なのかバスは前より良くなったように感じましたんですが…。

▼景観といえば、電柱が気になりませんか。松山市内、特に二番町辺りは、上を見ると電線が蜘蛛の巣のようになっていきます。市内を動いている電車・バスと同じに論じることはできませんが、どうにかならないのかと思うのは私だけでしょうか。

▼今、時の人となった小池百合子都知事は国会議員の時、無電柱化小委員会の委員長を務め、PHP新書から「無電柱革命」を共同出版するほどでし

た。クールビズを押し進め、男の首からネクタイを引き抜いた人ですから、東京都から電柱を無くすことができるのではと期待してしまいます。

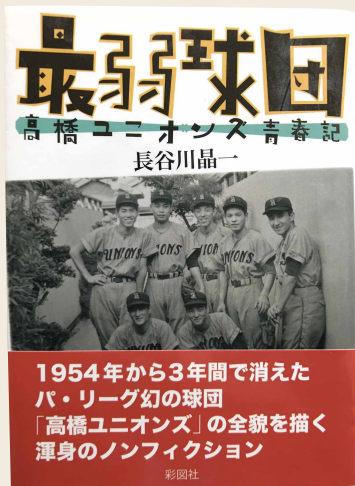
▼なお、議員立法の無電柱化推進法案が国会で成立する見通し(平成28年12月1日時点)となりましたが、地下埋設にはコストがかかります。安全・快適、防災といったことも言われますが、やはり主は美観ということでしょう。美観とコストどちらをとるべきか…。



松山市二番町辺りの電柱、電線の様子

『最弱球団 高橋ユニオンズ青春期』

著者：長谷川晶一 出版：彩図社



昭和29年から3年間で、「高橋ユニオンズ」というプロ野球チームがパ・リーグの一員として存在したことをご存知ですか。「日本のビール王」高橋龍太郎が、私財を投じて経営したチームです。

日本のプロ野球は昭和25年にセ・リーグとパ・リーグに分立します。当初、セは8球団、パは7球団という変則的なリーグ構成でした。28年セが6球団になり、同年末永田雅二（映画会社・大映社長）がパ・リーグ総裁に就任すると、セに対抗するためパを「8球団にする」と発表。8球団目のオーナーとして引っぱり出されたのが、龍太郎です。

私が、「高橋ユニオンズ」を知ったのは、平成27年7月、内子町の文化交流ヴィラ高橋邸に宿泊したことがきっかけです。高橋邸は、龍太郎の生家で、その一室に「高橋ユニオンズ」の写真や、ユニフォームなどを展示していました。ここで、ユニオンズのことを知り、その年の10月に出版されたこの本を、さっそく購入したと思います。

「高橋ユニオンズ」の3年間の通算成績は、435試合、147勝280敗8分け、勝率3割4分4厘。確かに最弱球団と言えます。しかし、このチームで、プロ野球ニュースの名キャスター佐々木信也がプレーし、スタルヒン投手が300勝を達成しています。シーズン中に現役コーチが市議会議員に立候補したり、その選挙運動を手伝う常識はずれの選手がいたりしましたが、「高橋ユニオンズ」の3年間には、野球に打ち込んだ若者達の青春がありました。この本には、今まで顧みられることなかったユニオンズと選手たち、そして、球団関係者の思いが綴られています。

【高橋龍太郎】

1875年（明治8年）～1967年（昭和42年）。喜多郡内子村（現・内子町）生まれ。昭和期の実業家、政治家。ビール製造技術者から経営者となり、「日本のビール王」とも称される。昭和22年日本商工会議所会頭に就任。昭和26年通産大臣に就任。昭和22年～昭和29年日本サッカー協会会長、平成11年に第1回日本サッカー殿堂入り。

内子町にある生家は、長男吉隆が死去した後、遺族により内子町に寄贈され、現在は「文化交流ヴィラ高橋邸」として文化活動施設に活用されている。

（文中敬称略）

愛媛県議会議員

松下行吉

まつした ゆきよし

〒791-2141 愛媛県伊予郡砥部町岩谷口 135

TEL 089-969-3605 FAX 089-969-3606

Email : matsushita31@iyo.ne.jp

<http://www.iyo.ne.jp/matsushita31/>

